酉事或問 上

ヤ 9
1137
1

問事業成功自身
[illegible]病[illegible]法[illegible]
皆必不[illegible]の時[illegible]
[illegible]のみ[illegible]
[illegible]
術法[illegible]へ[illegible]
[illegible]

小澤佐膳

91-1974

聞されはこそ乃ち正
道あり邪乃ち必ず正道に非れハ
ア乎ハ[illegible]ハ也すなハち邪乃
ち[illegible]ハまたく[illegible]
し偏今人を教ふるすなハすと
雖も邪人を迷ハするなら
ん乎ハ[illegible]道ハ也しまて

人ハまたハすなハち[illegible]
[illegible]ハ[illegible]を
[illegible]ハ病を治すれ
一助ともなり病家中皆を
乃道と雖ども[illegible]
[illegible]ハ偏人乃道
晩し易ふ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

明和六丑 仲春

[illegible]

醫事或問巻上

一　或問曰醫家のうれうるところいかん

答曰古昔醫者三ツあり曰疾醫曰陰陽醫曰仙家醫なり周禮に疾醫は病毒の不生とうれうる毒と成ることを毒と方と云ふ病毒と成ることを毒と云ふ傷寒病疾若長治に扁鵲仲景のごとき所なり陰陽醫とは不視病ことを唯陰陽五行相生相尅経絡等をもて病状を編に詰て憶見をもて

治するの法漢の張仲景を
仏家醫ハ氣を煉丹を煉し人
をして造化ふ[illegible]せんとす
[illegible]人なくなく害も亦多し
葛洪陶弘景孫思邈等なり其醫
を万病唯一毒といふを解し
一什某方ふ[illegible]病毒解すといふ事
と心よ[illegible]る[illegible]病治せるるゆ[illegible]法
醫を以脱六腑陰陽五行相生相尅乃

ものと書籍あて見[illegible]人理とりて病を論
し[illegible]ふ見[illegible]る事なく臆見をする[illegible]人
却て術をやとれ[illegible]あれど實
ふ病を治[illegible]ふ[illegible]陰陽醫[illegible]人
病を治する事あ[illegible]に陶弘景孫
思邈乃[illegible]仏家乃術と[illegible]彼陰陽
醫ふ仏家の方と混じ[illegible]と今は醫
中興の醫と[illegible]信[illegible]ふ[illegible]扁鵲仲
景は道絶[illegible]後一書一人疾醫の[illegible]を論

るゆえ安に医を招く漢の方士金丹を
服し二千年を経て嗚呼悲しむべし天下
人民の疾苦若し医なければ絶えるとも
んとすへし医学古言ふく考へ
一或問曰今の医方ふくを病治し疾
医乃方ふくも死に行とて吉凶とも
なんや
答曰死生は人の命ふあるに天の命
なり故に古今名医扁鵲の曰越人非

能生死人也此自當生者越人能使之
起耳と扁鵲ふ称ふる人とせしゆえ
いかんや今の医ふ於ては医
者を唯病毒とて人の疾苦と称ふ
みとを術と学ん人なるを真の医なり
学へざるを医者にあらざる人なる医者
をい病へ此薬ゆえ治るこふすとを
変定ふる人一度方と虜ふまを
病症の定まてハを薬を人に給ふ毒

く病治をなすと云てなる故なり
又云へくする醫若へ如ふ能生をなる也へ曰く
ふ方とう人曰くこれ加減をなるなり何とくく
病と治をなるすとちんや知るに今ふ方
ふく治をなるといへる変信用ちくさし吏病
毒乃動すべ必休息あり毒の静ふ以よ用
ひをる業方をを方をて治しくるべに
異へどをを業の功よあるに毒の静くる
なり故ふくよて発くる時を方と用ゆ

是をも治せんして方と変なりをみく
尺をべ業乃業ふく治しなるにあり
くるすふけしく又相業といふく用る度
ふ静まるすあり毒へ業と用ひに捨をを
ても去ずまくるをのなりれと云にて
和業とかりふを迷すを和意ふ業へふる
らに毒よあくふ瞑眩して病治をを毒
ふあくる時を氣をいくをなる也へ不和意
なるやうに甘をを紙病の治をるとして

相應の業と知るべし

一或問曰毒を去て病の治をなすと又病毒
なきを静養して素れ功あるをいふ
なるべし
醫にあらざれば知りがたし
答曰是實事也雖も知る事なり
去れども病みなくハを去るし徴
妙なる人分なし能なるべき所を
溜傷寒吐疫痢病抔して生死十日ゟ廿日ゟ
大切の病人ありを世間世上ゟ

上ゟといふ醫若十人ゟ十人ゟ必死
といふなれハ大病ゟ軽ク時合必死と
なるべし病人を治なるハ死なるかと
問ふ彼醫若いハん死なるもあり生なを
あるを生死の知る能ハなを生死を
ゟなり造化乃用ひて人の知ざるを
ふあるハ醫若の主所を疾也と病ハ治
なるハ天と并ハなる人を治せるもの也
又ハ人の為せる所ハ行程なく為ふ後する

そこ問答しこれ有りしを聞く醫若十人の
十人みな〻毒に中れ病人に生ずることハ九十
日を経ざるもの有る後やぬのならといへん
もの実事也人ごとにいふす遠に京俗人の
病に功者なるものふ中ふても醫の言葉
と同じ〻ものにて病人とこを日より新
毒の不出と云方とまて其病毒と云
ふ天年ごとる人を三十日ばかりふは
ものよ儀をもて始終毒とをちかれすを

せんなをもて又補剤めく業ふといふ癒ふる
ことハ九十日も始ごとべきもの後をるものあ
いだと言葉ふ六十日なり又病名病因
と論ずる醫若を如て功者なる中也ことも
主人あるよ用剤の業ふものなり元治定
論ふ〻ものにいさるものあ〻いさる也治を
ずる業方とこを病ふ治ずるまて用ものあ
ば日ふ方とと人或を加減をるなり元ものと
治ずるものとをもなあり新をもを遍

治する事あり先い醫ねふりて生活と
以若形り治する変と知る法ハ方れかい
るふく知し支醫若ハ病毒のうゆゞし
事又業の方と知されハ病と治する
事あるハ醫者の病と治するハ業より
醫大將乃士卒と治ふ士卒
ふ病毒あるて指引の使なるごとは
軍ハ成ごとし病と治するもこと業ふ恐
あるく用事自由なるれハ病を治

せざるなり
一　或問曰先生ハ用る業の效もなきなり
弁し毒ものを業方と人ある事いうん
答曰毒病と治する事れ業ハ人
ふいるれハ為ふること病に名を付け
病因と傳するハ隱見ハ人ハ十日を毒
業方れ効ものれ病ひ知ふるて
方と為なり扁鵲のごとく疾醫を
病毒と見毒ハ業を出て治する

ゝふ或は心を変じ変じとるゆへ作る所の薬乃効
なれども病の治するとは薬方とかゝるゝ
ゝりを内ふ自然と病毒れ動ひあり動と
きゝたふ瞑眩して病治とるものなり病
治したるあとゝくれゝこと薬方かりては
治せぬ幼ゝくすり又ゝ病ふ中ゝ
ゝる或ゝ方と唯方とゆへぬゝと自慢しく
人と恋ひゝこのゝりゝを法者のゝゝゝ
ゝり必恋へゝゝゝゝとれゝんゝ思ゝく甚

病人の治しゝゝと四角しく彼法者を始
て完ゝゝる変ゝく只ふゝまゝていひちゝし
氣象ゝ住て言ゝる所始一定なゝゝものや
又能病と治ゝる人ゝ見へゝる中れかゝいゝ
さゝる所ゝを言ふ所ふゝ又病
人変ありてゝ驚ゝ薬のゝゝるしゝあけゝ
ゝゝゝゝ病体変せゝれゝゝゝゝ言或
用る所体ゝゝるしゝりゝゝゝ動なゝゝ
てゝ一年を生ゝゝゝ方と用るゝ知る

一　或問曰聖人の道を醫好みを濫みく
絶ぬいふ事いかん
答曰聖人の道の絶る事へ孟子荀子
などよりを始る流俗の子貢曰夫子之
言性與天道不可得而聞也子貢らも
始く学べといふるゆを荀子を性悪と
いひ孟子を性善といひ各々言ふて流俗
共繁雑なる性と天道

なる造化の事にて人ゆふあれ共ふ
を説始ゆ絶て聖人乃道絶るや
聖人れを実事と沙ひ分ゆ絶て怪ゆ
いひるゆへいふる性と天道と理
にて心ゆ絶の無ふ学ぶ始ゆ孔子も
罕にのみ言ひ貢も始く学ぶ絶と以
聖人れを絶てより性く流湯立行を
て理窟と云ふ少へ扁鵲の如き医
乃を絶を食云ふ流湯醫好にて

をるなり扁鵲扁鵲をいふこと病を治するに形狀と元氣と毒と去り病若は軽人をもて治するをいふ人をみるに形狀をもて毒をふくみて毒をもて毒を治するをいふ知るべしいひ分に治するをいふ大なる知るべしと知るべしと云ふ毒いふ行の事かを毒ふるものきものなり

一或問曰後世乃醫若へ風を暑濕燥火乃六氣ふ傷るとく病とせるといふ疾醫を傷るとなすをいふいん

答曰風寒暑濕燥火を天の六氣ふ天乃命令なりあんを万物生長收藏をなる天乃命令なりあんを天乃人を傷ることは理あるんや万を傷ることは天地私なりいうんとなれへ天下万民をくを六氣の四ふ生を能多あるをぬ人をあけをもも傷ることあるんざるとありなんを天をうをとわるを罪をるをいう

んや況又天乃冠をかぶりて来りて
治せん能く考へ〳〵余古昔名醫の法
ふ遵ひ癒治して考ふるに六氣の病と
く知れ治せる業方形〳〵唯扁鵲仲景
乃ちく病毒に方と云まへ汗吐下和して
百病治を彼六経ふ傷やを紀とい人も毒
毒と云附を風毒風をふ以ても傷を
さるふく知色〳〵
一或問曰風ふあるつて風は病と生〳〵食物

ふあるりて筋痛〳〵ほくこを食物は
吐とれは腹痛やむをとして死は食ふを
ふ乃乃邪毒ふ傷れはいひを
答曰毒人同し風ふあれを傷れを
あるを傷るまあるもはるを又同物と食て
を食傷を風人をありやあ人もはりを
皆傷を風にあるを天は氣ふ感して筋
中は毒新なりを毒と云は風り
傷るを故を食ふ傷れやを紀といふ人

行程風あるいてもいたと食べても傷
ぬるものなるものの炙り食物ふるき
蝕あり蝕ハ猶中れ毒ふあるなり中へ
蝕ハなるもの毒ふ紙ものれへ蝕ひ猶を
もれふなり食もれへあらて猶痛をる
やうハ猶もあるものなりもとりて風
も食もを傷る猶よりと猶中打毒動て
氣ふ紙ものハ志ものるといふものと知へし
一　或問曰内經に示法家ハ五臓の積ふ紙

説疾醫を唯一毒といふて五臓乃説と
紙ものるものいふん
答曰脾胃のものに周禮管子抑ふあれもを
後世ふいて五臓六腑ふ中れ毒にあるハ後世
にいふ五臓六腑乃ものハ漢ふもり後世醫
盛なるなりて後の説なり内經抑ふ心積
脾積肝積腎積等ふ中と毒を傷しも
病をしふ毒ものて治をるものいふ毒を
功者ものに同ゆもとも今用ものに茶効る

し後中の事ハ外よりハ見えなくして皆推
量なる事なれハ勝の説をこゝにあり
一或問曰生死と知ることを後前を考
用ひ死しをなげくことハ若ハ
ていかん
答曰生死と云ることハ前人畏る
答なり云ふにも媚使ひなりけるなな
し若さらけるハ畏れぬをいかゝ
ゝ云ふべき事なれども生死を元より

云ふなり聖人も死
生命ありとのゝしく人ハ云ふ事にあ
らずと云ふ也知ることする也人
療治ハ速ふすあり元人用ひ大切なるハ
命なりと生死の二つ法世間ハ生ハ海
く死なり物ふ人更ふ変ずして死
らずと知をなれ人なりと人を知る
をいふハ志ひなるを事なるを強ふ大切
乃庶人なり死てなとなりハ知ある

時を心家熱孔して病治もなくて唯死を
待つの日なく療治と施すあること個様
なる事俗人多く智る所生死と知れ
ずといへども寡不生死と云ふ所なり
醫若し只病若し脈をみて生死を
天乃司所と治定られい遠不事なり
と雖も人病醫の必死ときらふる病人
の食物なるものあるを知ずして生死と云ふ
といふも醫若し要云なり生死と知ら

ずといふものは以て知ずして病を治
ずして病を治せんとの醫と云かゝ古昔扁
鵲過虢太子暴壁而死去るに扁鵲療
治して蘇らしめ故に天下の人称美して
扁鵲為能生死人を以去れども扁鵲を
交して越人能使之起耳と云りとして生死
者越人能生死人也此自當生
を醫者れあつまるとなるとして余が
京師紙園町伊勢屋長兵衛と云若と療治

ちゝ子治せ之病人池深の症にて世醫
治〳〵かゝ〳〵ゆへ則余とゝ行くゆくゝと診
ふ心下痞鞕水深嘔逆してまゝふ絶んとす
余曰此方れ瘧治を世上ちふ恐ちゝ其
原を今の醫乃ちゝあやまりふゝ業を
此方ふ用ひ病よ的中ちる時ちふ瞑眩を
ふすりゝ瞑眩ゆ過ていゝ病治やゆりの也
ゝいひれを病家の若令澤〳〵業とゝ乃
生姜深心湯とゝ貼用ひれへゝ日ちゝ時分

ちふ吐深〳〵て病人氣絶とゝふようて家内
ちゝ騒動〳〵醫と集て診ちゝれい治乃〳〵
ちりゝふ〳〵ゆへ此方ゆ用ひ病人を招又
ゆりゝと診すゝ也へ病よ家を招又
内乃若ゝ醫りゝ絶呼吸絶ゝり家
人乃ゝ也孫呼吸絶ゝ也ゝに
てちゝ湯二時ゝ死ちる也ゝ
死〳〵ちゝ死ゝ也ゝちりなり先靜て心よく
とゝふ入ゝて死ゝ又人命ゝ〳〵業ゝ方

ゆりなるを夜九つ時分病人長れさめたるを見れば一類眷屬集居るが如くにて一新の若しおもきてゆ、やうに今日七つ時分より呼吸色脈とゝまる絶を醫者と集くゝ人を作れども死人の業なりといひて病人を埋ましふ思ひ定れ因て深しうこゝに一白髮老したる婆ゝ寢ゝるを乳母とゝくゝ

ゝる行ふ者ゝゆゝ人ゝゝゝ

らまこ四十あまりにてなくなれば地とくへ
ぐ出るよしなる由人答ふすあるこなるふ
右の病治して後にのちまでもあるる事ふ
ゝ七十まても壮健にて居る病人を
家和妻と子定こを毒に方とはして療治を
ものみこへよりて死とるもまるを去ら
て生とあるこ人多くなるにかゝはらずなをれは
死なぬ若人生まるこいふものあり何ぶの
病人と知りてもなをるこいふ由へ

恐るこ人多くなれしも生死と知ることいふより
知ることいふ療治よ効のある事考へへ
しかるこ武考へ金を謀ることを以下
平日生死とこ知ぬといふる由人大
ふ恐れを事といふて療治とおこと
ものたのむ人も多く人をたとる事も
多くこんこいふを知ることと考へこれ
と世よ顕こんこて法切とこへのふす知ぬを
しけすれなもあるこより生死いこる

ものなり今人世ふりぬるまゝに俗
しいたりて長者の諫らるゝ事更に辭退も
なくかゝる人の疾苦を救ふ
吾道と素世ふ俗人ばかりなれば
ものゝ本末の志なきもの醫術ばかりを
ものゝ餘能なるは道とは異人にして古昔
顏淵曰夫子之道至大故天下莫能容
雖然夫子推而行之不容何病不容然
後見君子夫道之不修也是吾醜也夫

道既已大修而不用是有國者之醜也
不容何病不容然後見君子と醫を示
ばかり二子の事を語る道と紀くばかりなれ
ものゝ人儀死ふるものゝ道世に行はれず
吾生涯のなりわひなり有信ばかりなれ
ものゝ人ばかりなれば死なれば
死にしを嫌しなれば彼老人懲惡してこれ
ものゝ人の好むこと人の好むこと
ものゝ吾ものゝ生涯のなりわひ

たゝされの醫術と云事あてはまるなるべ
んそいたるけふとゝんやうにけふ治
するすい病の治するとして知べ
一　或問曰太倉公を古昔の名醫ゝして史記
ゝを扁鵲とくらべて称せり其太倉公を
当生死のすい定いを知るゝ先生生死を
知べきゝばをいるいかん
答曰太倉公を法湯醫なり疾醫ゝあら
ずなりを首章みてしるべし扁鵲を

疾醫なりこゝを道後漢の張仲景ゝ伝ゝ
仲景沒して後絶ゝ伝る者ゝ今ゝ醫
者を古のゝ流ゝて二ゝ分ゝ
古のゝ一人も疾醫ゝ乃ゝと行ふゝ
当生死を論ゝ事ゝ生死を
後授ゝ史記太倉公ゝ伝ゝ齊王問
太倉公診病決死生能全無失平臣意
太倉公名也對曰意治病人必先切其脈乃治
之敗逆者不可治其順者乃治之心不

精脈所期死生視可治時時失之臣意
不能全也此あるこを能知るといふ太倉
公の論してもくくに及ばしこと生死とをぬ
といふ余もてをくるるものあるものあり
七八を遠ふるものあり能知といふ太倉公
をもてぬといふ人命も同しものを見れも
いつくに死生造化の目ふく人間の論
し知つをを程なり当生死とをるといふを
倉公も実ををるる事あるいふ玄業

みくのうのあり
一　或問曰古方と信をる人を後世の醫者
を用ひを後世の醫者と信をる人を古
方と思もくく用ひに又古方れ療治と交
ても性命をぬ人を殺害をるものあり
いうん
答曰瞑眩をれいをるもの事なれも
をのの性命をぬ人を害度を
用ひ病毒をるまて服用をる人絶り

金液丸瞑眩せざれば病治せざるなり
を能知りたれ共後世此業と用ひ
ざるなれば又後世の醫を信ず
る人乃用ひざる古方の療治甚あり此やう
ふたん用ひぬものなり又古方乃
療治能文く性気をぬく人を殺すこと
いなるを療治ふ誤りて成遂さる人なを
をいまだ用ひざる人より多く殺す若
なり業功のあるを必瞑眩しるしふる

なんと知りふ行ふ若ひすあるを去れしこと業
ぬく高しる事也人二時半ばれ藥氣を
て差れこあるこること治りくなりこ
大ふ病毒滅るものなりこと拾ふと人
瞑眩しるれ時驚て他ち醫若と新を不信
瘡と用ひれ時乃ふ性氣をるなして
よあるこ療治ふく死ぬんと去ける不補業
と無らを命を拾ふ世にありし益古方
を恐るる業和こりも甚しを補業

みて治しそこなふあたはざる業氣つきて
世業をなすなりとて古方と信ぜざる又
不用いたんなりハ甚恐るべきなり
一
或問曰後世の醫ふかく病毒をくハしく
ものなりといふ毒家ハ古方をいふ
といふん
答曰病毒を生じ後生ずるの中人
毒業ふかく取ものなりこれ他接ハ
大病と癒治をなす後毒ひおこる

又ものうなる業ふかく氣ふ病ひ體と書ふ
といふ醫者を大毒の業と恐て用ざる故
毒ハ去るの程ふかく治ふ彼癒治ふ
病の治する事あり是ハ實ふ治しとなる
あるハ自然と毒乃醫りて世業をなるあり
こ他接ハ又ものおるこれ毒ものく
をハ去ものこれ以形疾醫ハ古く去
るなれ人ものこれ
一
或問曰老人小児又ハ疾る病人

驗剤と用る事いうん
若曰死生ハ吟味了解せし又術のよ
ふ人ハ毒なしかるゆえ死生乃
了解ある人をたゝ人いうにつる
まてる老人小児おそれ病をけ業ふく
治るゆえ了解と吟味了解ある人を
たけしき業と用也又了解せざる人を
業毒よ惑して死る事もあんを
恐心ありて業と用る事ハいさるの

主死る病人をいうやれ毒業と用ひく
も病毒新さる也人瞑眩せし瞑眩とハ病
毒減る也人をたゝひ命救ふく死るも
病若とまやれやうに死るものなり
丈業ハ體と若ふものふあるに体中れ毒
と死ものなり体中よ毒あれへ食すま
る也人よ羸瘦ふりこを毒と死ぶ含す
みく體ハ若ひよまふなるふり体ハ不
瘦ふ体人る人を大ふ毒ある也いよく

茅根をけづりて用ひて殊に老人小児は
変じやすき事なり是病毒盛
なる時は病毒小塩と変じる事あり也
也人用ひる場所をもめりて又用ひかたし
必恐るべし此人今も死る事に成る病
人多くも毒小徹とる毒草と用ひれば亦
汗して或は吐して或いはりて美の苦しむ
小ふ為らく治とるものなり彼傷寒論
強人一錢ヒ羸人半錢ヒといふは法人

乃搗入なり或小便にて
或問曰彼大毒の草と用ひ毒小死を
ものあり如何なれば草小て死しこと
あるや
答曰草おく死したるにあらず死ぬ也
時を合して死ることいふものなりこれ
死るものハ草毒小あらず仍ともるものの
なり又草毒よあり腦をも吐深とる往
強て死へ法よ往やれ毒盛する中人なり

扁鵲といへるものもこれを嘗て味を
選ひ薬性を知人天命を絶ことを
一或問曰毒薬ハ古昔より毒殺といふ事あり物ふ河
豚魚の鱠ふ獣名而魚毒何之神毒毒
手毒不毒手人と手のふいん
答曰薬と申ハ後世のすり古書
ふを毒とあり いまく薬とかりいふる
事と後ハ周禮曰聚毒薬供醫事素問

曰毒薬攻邪又曰攻病以毒薬養精以
穀肉菓菜とあるを甚毒薬と不聞ふる
ものも人知ぬ人を恐ること苦なり支薬乃
貴を功あるとして貴しとして毒薬とも
薬ふて死する時ハ薬とハいふものなくなる
又病と治する薬方と用ゆるハ人乃病苦ハ
物ふなるなり薬を用ひ毒薬なきこと
唯薬方のみを合乃遠ひなり能きものと知
る人ハ毒薬と用ふ恐ること事なし

ゑらぬ人をゝ志ゝ為るをゝしいうるる英雄豪傑ふくも知るるすい坊ゝ行うゝ又一文字知の人ふくも志ゝ格子とよく志ゝ行うるすもを学ん来すれゝ吾家の毒薬と用るを示ゝ為りけゝ毒薬をて此病い治すれとゝいふを知るるかゝ恐ゝすゝ行ゝ何程乃大毒と用ひくも只病治ゝてゝ死ゝ害はなれるすゝ

醫事或問巻上終

内閣文庫

7